

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	2024年7月12日
【四半期会計期間】	第41期第3四半期（自 2024年3月1日 至 2024年5月31日）
【会社名】	日創プロニティ株式会社
【英訳名】	NISSO PRONITY Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 石田 徹
【本店の所在の場所】	福岡県福岡市南区向野二丁目10番25号
【電話番号】	(092)555-2825(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画室長 諸岡 安名
【最寄りの連絡場所】	福岡県福岡市南区向野二丁目10番25号
【電話番号】	(092)555-2825(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画室長 諸岡 安名
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 証券会員制法人福岡証券取引所 (福岡市中央区天神二丁目14番2号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第3四半期 連結累計期間	第41期 第3四半期 連結累計期間	第40期
会計期間	自2022年9月1日 至2023年5月31日	自2023年9月1日 至2024年5月31日	自2022年9月1日 至2023年8月31日
売上高 (千円)	9,100,597	13,152,970	12,548,788
経常利益 (千円)	611,935	1,238,319	416,454
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	1,853,736	868,883	1,523,307
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,857,683	867,613	1,532,882
純資産額 (千円)	11,488,692	11,835,323	11,163,929
総資産額 (千円)	23,154,138	23,150,856	21,886,443
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	285.63	132.84	234.33
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	283.25	132.76	232.76
自己資本比率 (%)	49.5	51.1	51.0

回次	第40期 第3四半期 連結会計期間	第41期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自2023年3月1日 至2023年5月31日	自2024年3月1日 至2024年5月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	22.28	40.75

(注) 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社は、2023年10月2日付でカナエテ株式会社を子会社として設立し、同社は、2023年12月29日付で株式会社Japanlineの事業を譲り受けております。また、当社は、2024年1月18日付で株式会社マルトクの全株式を取得し、子会社としております。更に、当社は、2024年3月19日付でシキファニチア株式会社の全株式を取得し、子会社といたしました。現時点では重要性が乏しいため、同社を非連結子会社としております。

以上により、当第3四半期連結会計期間末現在、当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社(日創プロニティ株式会社)、連結子会社10社(孫会社1社を含む)及び非連結子会社1社並びに関連会社2社により構成されております。

当第3四半期連結累計期間における、各セグメントに係る主な事業内容の変更と主要な関係会社の異動は、次のとおりであります。

(金属加工事業)

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

(ゴム加工事業)

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

(建設事業)

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

(タイル事業)

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

(その他)

ものづくりWEBサービス「カナエテ」の運営及びシステム受託開発を行うカナエテ株式会社が含まれております。また、内装用木材・集成材の加工・販売を行う株式会社マルトクが含まれております。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復が続くことが期待される一方で、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクがあり、依然として先行き不透明な状況が続きました。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、当社グループは、新規取引先の開拓、既存取引先のリピートに積極的に取り組み、金属サンドイッチパネル及び太陽電池アレイ支持架台が伸長したことや、前連結会計年度においてM & Aにより子会社化した株式会社ワタナベテクノス、株式会社天神製作所及びニッタイ工業株式会社の収益貢献により、当第3四半期連結累計期間の売上高は13,152百万円（前年同四半期比44.5%増）、営業利益は1,169百万円（同118.9%増）、経常利益は1,238百万円（同102.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は868百万円（同53.1%減）となりました。

なお、セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### (金属加工事業)

金属サンドイッチパネル及び太陽電池アレイ支持架台が伸長したことや、前連結会計年度においてM & Aにより子会社化した株式会社ワタナベテクノス及び株式会社天神製作所の業績が期初より貢献し、売上高は6,090百万円（前年同四半期比48.8%増）、セグメント利益は1,163百万円（同210.4%増）となりました。なお、受注高は6,169百万円（同13.6%増）、受注残高は3,079百万円（同2.6%増）となりました。

#### (ゴム加工事業)

産業機器関連及び建設・土木関連の受注が減少したため、売上高は761百万円（前年同四半期比7.5%減）、セグメント利益は91百万円（同39.3%減）となりました。なお、受注高は745百万円（同6.2%減）、受注残高は75百万円（同17.2%減）となりました。

#### (建設事業)

グループ間の連携を図り営業活動に取り組みましたが、大型工事の進捗が高い水準にあった前年同四半期の反動減により、売上高は2,346百万円（前年同四半期比29.2%減）、セグメント利益は191百万円（同61.8%減）となりました。なお、受注高は3,862百万円（同13.4%増）、受注残高は4,403百万円（同52.5%増）となりました。

#### (タイル事業)

前連結会計年度においてM & Aにより子会社化したニッタイ工業株式会社の業績が期初より貢献し、売上高は3,884百万円（前年同四半期比347.4%増）、セグメント利益は123百万円（前年同四半期はセグメント損失120百万円）となりました。なお、受注高は3,792百万円（同332.2%増）、受注残高は1,086百万円（同7.8%減）となりました。

#### (その他)

売上高は70百万円、セグメント損失は34百万円となりました。また、受注高は106百万円、受注残高は59百万円となりました。

(注)セグメント利益の合計額と営業利益との差異 366百万円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

#### (2) 財政状態の状況

##### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は14,963百万円となり、前連結会計年度末に比べ805百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が557百万円減少し、受取手形、売掛金及び契約資産が334百万円、電子記録債権が568百万円、仕掛品が405百万円、原材料及び貯蔵品が138百万円それぞれ増加したことによるものであります。また、固定資産は8,186百万円となり、前連結会計年度末に比べ458百万円増加いたしました。これは主に、機械装置及び運搬具（純額）が309百万円、のれんが109百万円それぞれ増加したことによるものであります。

この結果、資産合計は23,150百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,264百万円増加いたしました。

##### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は6,831百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,357百万円増加いたしました。これは主に、短期借入金が825百万円、流動負債のその他が537百万円それぞれ増加したことによるものであります。また、固定負債は4,483百万円となり、前連結会計年度末に比べ764百万円減少いたしました。これは主に、長期借入金が181百万円、固定負債のその他が573百万円それぞれ減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は11,315百万円となり、前連結会計年度末に比べ593百万円増加いたしました。

##### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は11,835百万円となり、前連結会計年度末に比べ671百万円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益868百万円の計上及び剰余金の配当196百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は51.1%（前連結会計年度末は51.0%）となりました。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、経営方針・経営戦略等に重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は9百万円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(7) 生産、受注及び販売の実績

生産実績

当第3四半期連結累計期間の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)	
	金額(千円)	前年同四半期比(%)
金属加工事業	4,345,425	143.1
ゴム加工事業	424,129	98.3
タイル事業	717,210	369.8
合計	5,486,765	149.8

(注) 1. 金額は製造原価によっており、セグメント間の内部振替前の数値であります。

2. 建設事業については、生産実績を定義することが困難であるため、生産実績は記載しておりません。

## 受注実績

当第3四半期連結累計期間の受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
金属加工事業	6,169,584	113.6	3,079,893	102.6
ゴム加工事業	745,840	93.8	75,544	82.8
建設事業	3,862,541	113.4	4,403,659	152.5
タイル事業	3,792,878	432.2	1,086,477	92.2
その他	106,964	-	59,247	-
合計	14,677,809	139.7	8,704,821	121.6

(注) セグメント間の取引については相殺消去しております。

## 販売実績

当第3四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)	
	金額(千円)	前年同四半期比(%)
金属加工事業	6,090,249	148.8
ゴム加工事業	761,564	92.5
建設事業	2,346,579	70.8
タイル事業	3,884,218	447.4
その他	70,358	-
合計	13,152,970	144.5

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
株式会社大林組	1,367,748	15.0	-	-

当第3四半期連結累計期間の株式会社大林組については、当該割合が100分の10未満のため、記載を省略しております。

## 3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,200,000
計	19,200,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2024年5月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年7月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,800,000	6,800,000	東京証券取引所 (スタンダード市場) 福岡証券取引所	単元株式数 100株
計	6,800,000	6,800,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数(株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
2024年3月1日～ 2024年5月31日	-	6,800,000	-	1,176,968	-	1,096,968

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2024年2月29日）に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

2024年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 259,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,537,900	65,379	-
単元未満株式	普通株式 2,800	-	-
発行済株式総数	6,800,000	-	-
総株主の議決権	-	65,379	-

(注) 「単元未満株式」欄の株式数には、当社所有の自己株式50株が含まれております。

## 【自己株式等】

2024年5月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
日創プロニティ 株式会社	福岡県福岡市南区 向野二丁目10番25号	259,300	-	259,300	3.81
計	-	259,300	-	259,300	3.81

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2024年3月1日から2024年5月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年9月1日から2024年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、如水監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,291,401	6,734,334
受取手形、売掛金及び契約資産	3,106,958	3,441,559
電子記録債権	953,207	1,521,734
商品及び製品	1,191,927	1,220,123
仕掛品	472,370	877,578
未成工事支出金	76,215	35,883
原材料及び貯蔵品	709,676	848,462
その他	359,744	294,968
貸倒引当金	3,284	10,700
流動資産合計	14,158,217	14,963,944
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,418,664	2,396,672
機械装置及び運搬具(純額)	1,347,520	1,656,823
土地	2,731,415	2,821,996
リース資産(純額)	44,611	53,397
建設仮勘定	99,773	-
その他(純額)	70,703	78,972
有形固定資産合計	6,712,688	7,007,862
無形固定資産		
のれん	447,331	557,174
その他	103,014	108,700
無形固定資産合計	550,346	665,875
投資その他の資産		
投資有価証券	99,367	199,213
その他	365,824	323,091
貸倒引当金	-	9,130
投資その他の資産合計	465,192	513,175
固定資産合計	7,728,226	8,186,912
資産合計	21,886,443	23,150,856

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	773,603	758,794
工事未払金	142,341	224,533
短期借入金	1,950,000	2,775,000
1年内返済予定の長期借入金	1,091,146	1,057,636
未払法人税等	301,575	207,860
賞与引当金	130,419	200,084
工事損失引当金	14,825	-
その他	1,070,095	1,607,737
流動負債合計	5,474,005	6,831,646
固定負債		
長期借入金	3,981,526	3,800,068
退職給付に係る負債	155,036	145,396
資産除去債務	232,890	232,930
その他	879,055	305,491
固定負債合計	5,248,508	4,483,887
負債合計	10,722,514	11,315,533
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,176,968	1,176,968
資本剰余金	1,096,968	1,096,968
利益剰余金	9,533,978	9,759,190
自己株式	654,674	207,223
株主資本合計	11,153,239	11,825,902
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,790	6,520
その他の包括利益累計額合計	7,790	6,520
新株予約権	2,900	2,900
純資産合計	11,163,929	11,835,323
負債純資産合計	21,886,443	23,150,856

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)
売上高	9,100,597	13,152,970
売上原価	7,026,077	9,409,980
売上総利益	2,074,520	3,742,990
販売費及び一般管理費	1,540,588	2,573,973
営業利益	533,932	1,169,017
営業外収益		
受取利息	46	75
受取配当金	2,218	1,968
売電収入	9,660	22,715
補助金収入	75,538	13,228
その他	16,595	64,320
営業外収益合計	104,059	102,309
営業外費用		
支払利息	19,964	28,362
その他	6,092	4,644
営業外費用合計	26,056	33,006
経常利益	611,935	1,238,319
特別利益		
固定資産売却益	429	3,844
負ののれん発生益	1,535,686	-
投資有価証券売却益	270	4,166
役員退職慰労金戻入額	-	10,000
特別利益合計	1,536,387	18,011
特別損失		
固定資産売却損	222	1,310
固定資産除却損	1,116	1,015
投資有価証券売却損	849	4,239
ゴルフ会員権売却損	-	4,683
特別損失合計	2,188	11,248
税金等調整前四半期純利益	2,146,134	1,245,081
法人税、住民税及び事業税	299,931	361,559
法人税等調整額	7,533	14,639
法人税等合計	292,397	376,198
四半期純利益	1,853,736	868,883
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,853,736	868,883

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)
四半期純利益	1,853,736	868,883
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,946	1,269
その他の包括利益合計	3,946	1,269
四半期包括利益	1,857,683	867,613
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,857,683	867,613
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

2023年10月2日付でカナエテ株式会社を設立したことに伴い、第1四半期連結会計期間から同社を連結の範囲に含めております。

また、2024年1月18日付で株式会社マルトクを子会社化したことに伴い、第2四半期連結会計期間から同社を連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

前事業年度の有価証券報告書(追加情報)に記載した「新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り」中の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響は軽微であると仮定した会計上の見積りについて重要な変更はありません。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響が長期化・深刻化し、当社グループの事業活動に支障が生じる場合、今後の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(四半期連結貸借対照表関係)

受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
受取手形裏書譲渡高	220,079千円	155,751千円

電子記録債権譲渡高

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
電子記録債権譲渡高	173,679千円	136,753千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)
減価償却費	317,353千円	379,909千円
のれんの償却額	35,508	57,688

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自2022年9月1日 至2023年5月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月29日 定時株主総会	普通株式	97,014	15.00	2022年8月31日	2022年11月30日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自2023年9月1日 至2024年5月31日)

1.配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年11月29日 定時株主総会	普通株式	196,219	30.00	2023年8月31日	2023年11月30日	利益剰余金

2.株主資本の著しい変動

(自己株式の消却)

当社は、2023年10月13日開催の取締役会決議に基づき、2023年10月27日付で、自己株式560,000株の消却を実施いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において利益剰余金及び自己株式がそれぞれ447,451千円減少し、当第3四半期連結会計期間末において利益剰余金が9,759,190千円、自己株式が207,223千円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2022年9月1日 至2023年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	金属加工事業	ゴム加工事業	建設事業	タイル事業	計		
売上高							
顧客との契約から 生じる収益	4,012,725	823,062	3,316,591	868,224	9,020,604	-	9,020,604
その他の収益	79,993	-	-	-	79,993	-	79,993
外部顧客への売上高	4,092,719	823,062	3,316,591	868,224	9,100,597	-	9,100,597
セグメント間の内部売上高 又は振替高	251,862	4,117	14,760	40	270,780	270,780	-
計	4,344,581	827,179	3,331,351	868,265	9,371,377	270,780	9,100,597
セグメント利益又は損失 ( )	374,794	151,186	500,282	120,938	905,324	371,391	533,932

(注)1. セグメント利益の調整額 371,391千円は、セグメント間取引消去11,811千円、子会社株式の取得関連費用 145,320千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 237,882千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの追加)

第2四半期連結会計期間において、ニッタイ工業株式会社及びエヌ・トレーディング株式会社を子会社化したことに伴い、報告セグメントとして「タイル事業」を追加しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「金属加工事業」セグメントにおいて、株式会社天神製作所を子会社化したことに伴い、同社を当第3四半期連結会計期間から連結の範囲に含めております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において、251,110千円であります。

当第3四半期連結累計期間（自2023年9月1日 至2024年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額(注)3
	金属加工事業	ゴム加工 事業	建設事業	タイル事業	計				
売上高									
顧客との契約から 生じる収益	6,089,411	761,564	2,346,579	3,884,218	13,081,774	70,358	13,152,133	-	13,152,133
その他の収益	837	-	-	-	837	-	837	-	837
外部顧客への売上 高	6,090,249	761,564	2,346,579	3,884,218	13,082,611	70,358	13,152,970	-	13,152,970
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	350,844	538	-	50	351,433	-	351,433	351,433	-
計	6,441,093	762,103	2,346,579	3,884,268	13,434,044	70,358	13,504,403	351,433	13,152,970
セグメント利益又は 損失( )	1,163,338	91,747	191,342	123,281	1,569,708	34,217	1,535,491	366,474	1,169,017

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ものづくりWEBサービス、システム受託開発及び木材加工を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 366,474千円は、セグメント間取引消去25,785千円、子会社株式の取得関連費用 57,437千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 334,822千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。



## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	285円63銭	132円84銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,853,736	868,883
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	1,853,736	868,883
普通株式の期中平均株式数(株)	6,489,936	6,540,650
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	283円25銭	132円76銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	40,939	3,996
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年7月12日

日創プロニティ株式会社

取締役会 御中

如水監査法人  
福岡県福岡市

指定社員 公認会計士 廣島 武文  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 内田 健二  
業務執行社員

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日創プロニティ株式会社の2023年9月1日から2024年8月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2024年3月1日から2024年5月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年9月1日から2024年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日創プロニティ株式会社及び連結子会社の2024年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一

般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。